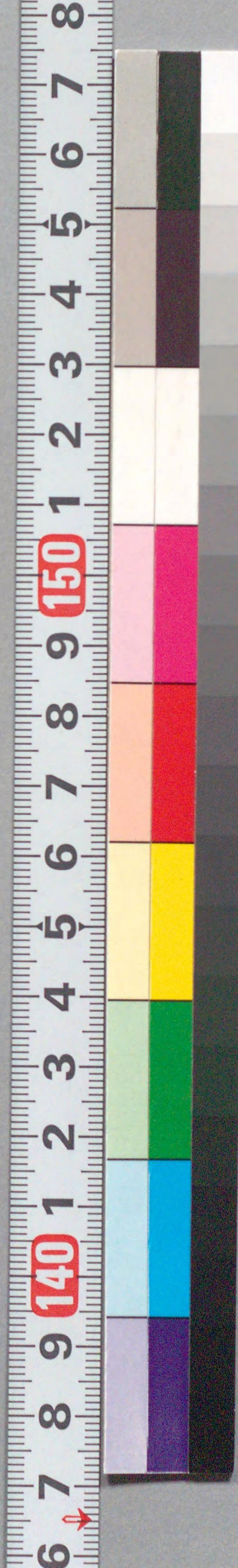
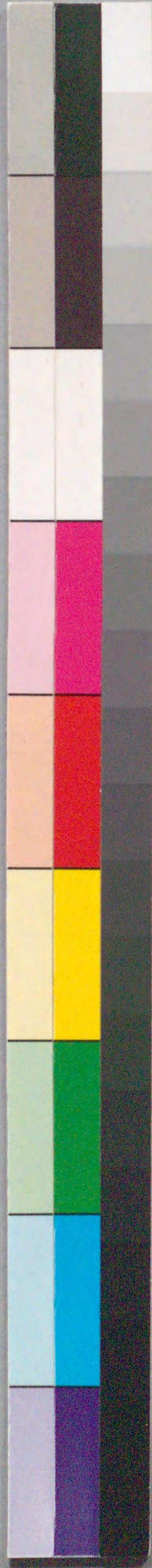


国立国会図書館 花籠 5編 208-700



ガラス使用



208
15
700

国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用









遊観時 花籠初編卷之上

東都 松亭金水編次

第一節を忍ぶ神のあけ

風ある道ゆく人の袂まで揺る白く如月の夜も長閑ぬ
月も麗ふ一ツ小袖ハ肌をく守りわてるをくまきと後でえ
なるその纏付まぬもてまきまを苑の若年ハ共集う
女一その風流も物一ツ不足ありざる打扮ハこそ後念乃
多揚何ふその名安え一合限者の小橋居ガ一人息子。

花籠初編

101

うき世に入ッてあつたまゝにわつた
「自色ア雅好の
りてよくもあつた。たゞ、うき女まゝとり入るべきは
史婦みよこらゝのつげし。今の月と回室みよこの
「イヤ私もさう、落命と云ふや、余りな、はま入る女、罰で
いふまゝ。まゝ君が、おれらのまゝ、おれをあげまゝ。二
年あつたうらうらゝ、モロおれもやあつた。あれど、あ
るうら、別海で居るうらゝ、おれを、おれを、おれを、おれを、
何と、了、得、入、は、大、家、の、且、那、さ、る、乳、技、持、ま、で、お、定、め、あ、り

下さつて、史々々、何年哉。まるゝ年。半老の、おちり、を、い、て、
半老が、おれ、家、の、且、那、さ、る、う、ら、は、モ、ウ、松、坊、も、来、年、ハ
十、菜、小、あ、る、う、ら、。乳、母、も、い、ま、ま、も、何、を、ま、う、と、い、ひ、如、う、
是、ま、で、年、来、養、ひ、向、う、。彼、を、大、子、は、し、て、育、て、ま、う、
その、れ、ら、お、れ、を、お、れ、の、行、分、て、ま、う、と、い、ひ、て、決、り、合、は、
う、ら、。さ、う、も、あ、つ、た、。在、ち、の、物、店、の、お、れ、の、健、び、の、女、房、が、死、て、
再、配、を、お、れ、と、い、ひ、ま、ま、。焼、傷、を、先、小、十、二、い、あ、る、男、
児、が、あ、る、と、い、ひ、の、女、児、ハ、お、れ、の、あ、る、。そ、ま、ま、を、連、児、り、て

花筐 5編 208-700

110

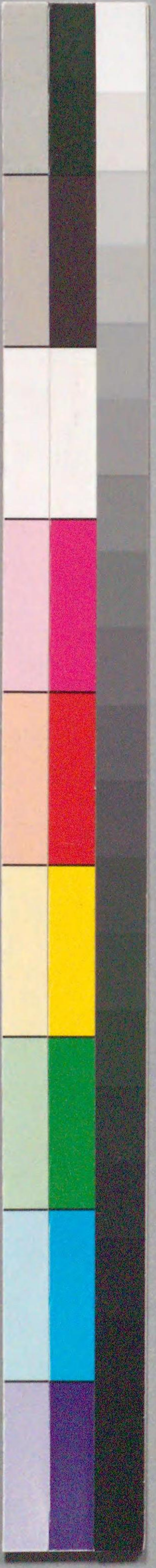


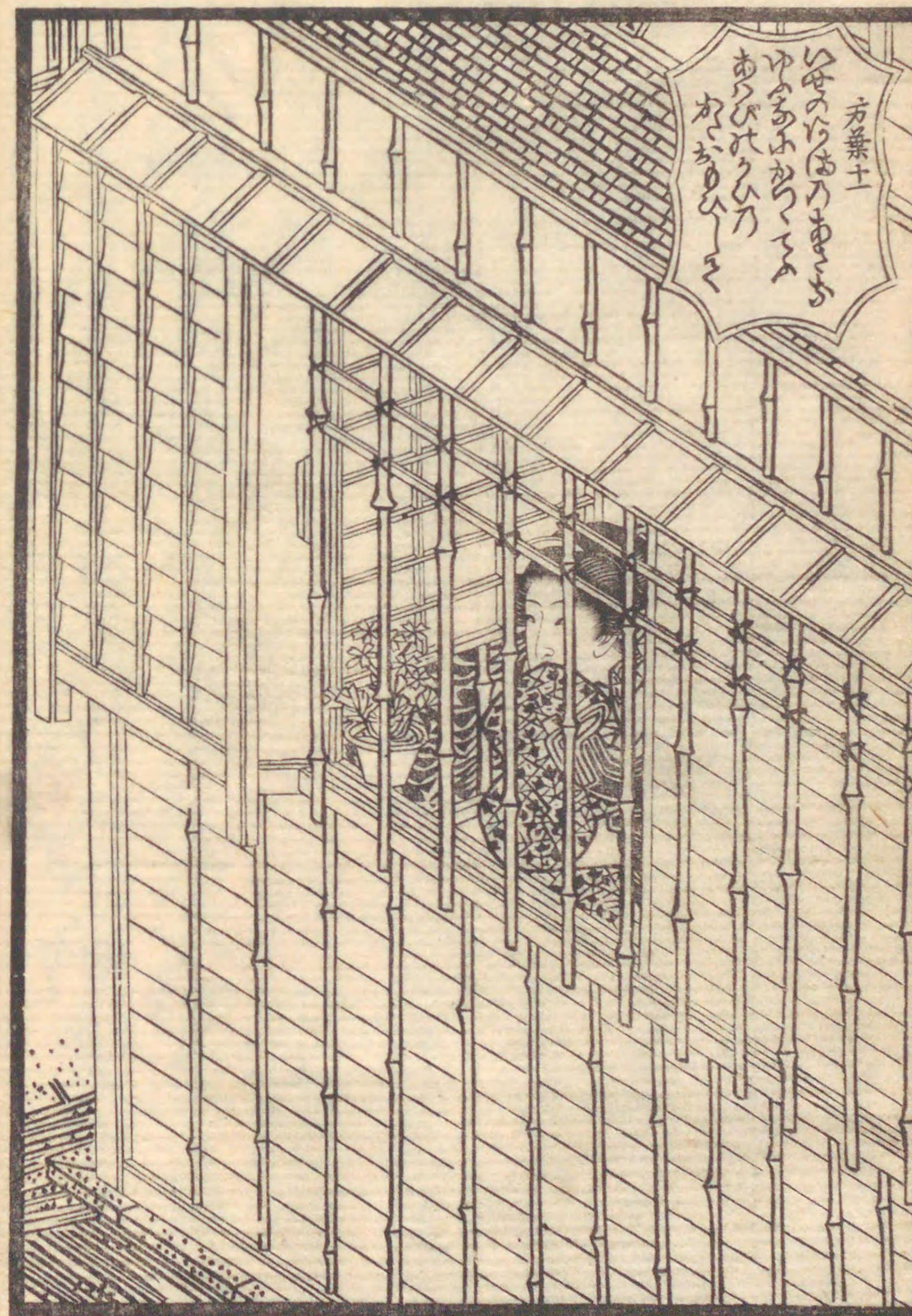
あつてはくはあせ
りてはくはあせ
そまへ物より
勿論そ方の
等々若て
嫁より他
及ぶま
まのと思
そむを
あつてはくはあせ
りてはくはあせ
そまへ物より
勿論そ方の
等々若て
嫁より他
及ぶま
まのと思
そむを

あつてはくはあせ
りてはくはあせ
そまへ物より
勿論そ方の
等々若て
嫁より他
及ぶま
まのと思
そむを

花筐

110





6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8

うきをうらと陰く大まきぬらうき
サアお芳先刺のるをヨト
眼であらせき合点と。お芳八素一出んとまを松八
えとさうて「ト」くおあ何処のさうわくち月と用
かあるうら子侍ま「し」をれてお芳八後を合と「ハ」何
でございませ「ト」居る形うのさうけき。お八美さう物
花あのみまるとを教お松次第八とさうさうど「し」い
まむ意の因。面被然と増くおとをもりをて居るけり

第二巻現も定まらぬ

万葉集うらと日月をりて。赤色女の肩おゆえさう。赤
冬結おと日月の光さく濃きあうりと連歌能遊う
りあさう「ト」そもくお芳八は年十九。おち赤土の勢艶若
みは長くあれど性質純きあの。此う八似毛。うらる大衆乃
姫君と。うらも愧ぬおむれたあ。さうとをさうた風あも
あうまのりと眼りこのを教ハ。拙きさあめ及びきた風流女
あまバ松次第ハ。お放蕩とま「ハ」一と惚て物憎くと裏くを
忽ちおし況りて。頓て懐きる紙入の中より把ちを綿乃

花籠

花籠

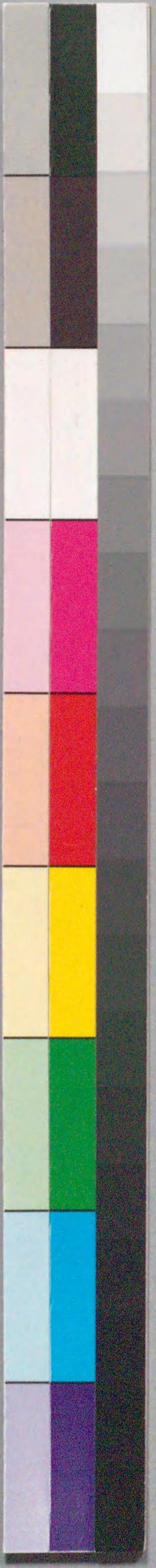


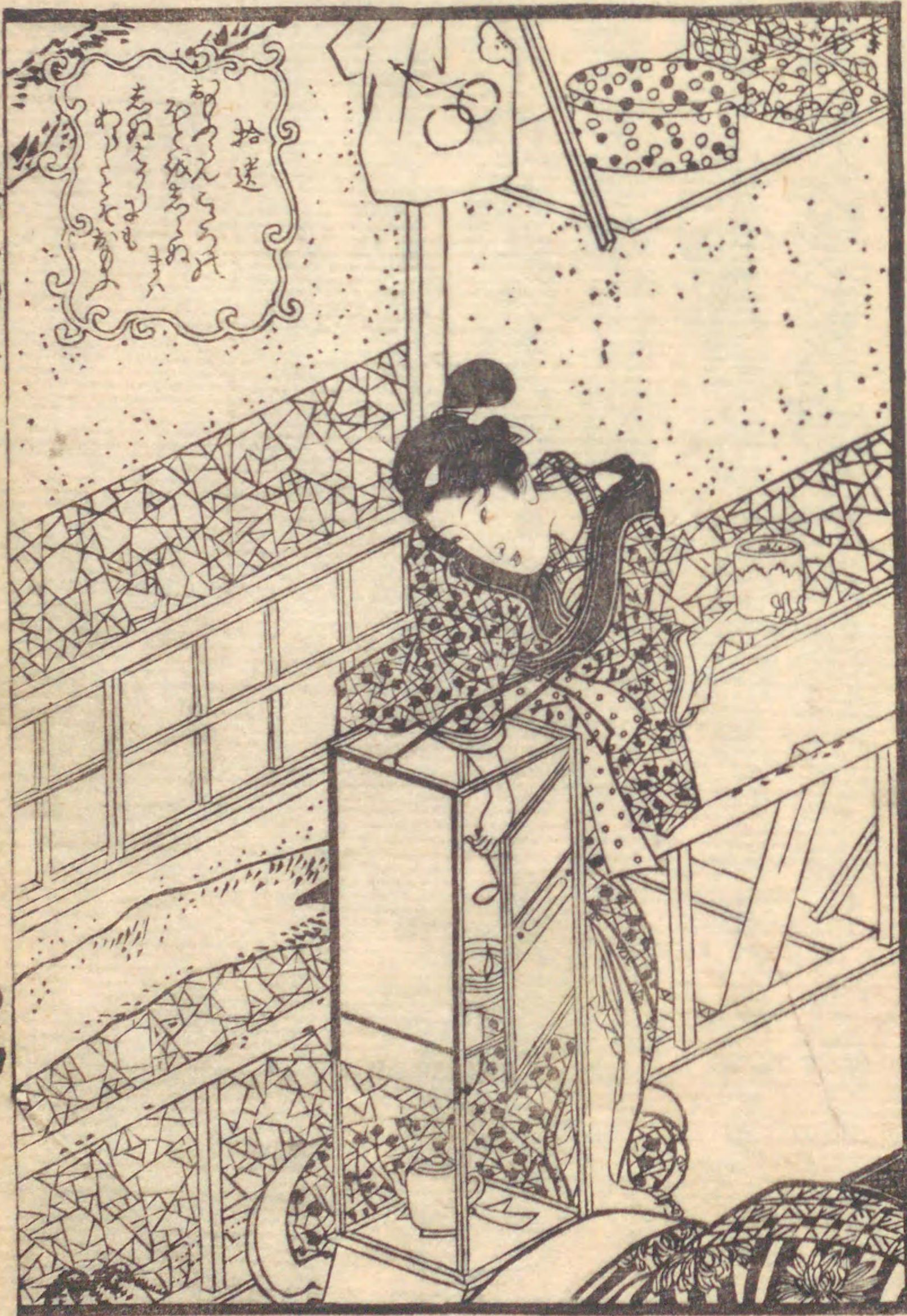
何れははま。さくさくをやア彼を。のそむふ把くおれさ
 其、物をつま松次第が心み背くも却て不れとぬあ
 とををり頂く。松次第へらみと向き「コソこ八らみ
 ちよらびら。酒とををぬきつる如があるさ。一た松他ま
 直のへらさのません子「さうもはるく不自由さかど
 ざのまま。寝るる義成とやまをさうまませけれど
 ちやのけね。何ぞあつたつものいふ「何いふは
 せう。ちよらびら分して年らまらう「強出せ「がねもさ
 せう。ちよらびら分して年らまらう「強出せ「がねもさ

何れははま。さくさくをやア彼を。のそむふ把くおれさ
 其、物をつま松次第が心み背くも却て不れとぬあ
 とををり頂く。松次第へらみと向き「コソこ八らみ
 ちよらびら。酒とををぬきつる如があるさ。一た松他ま
 直のへらさのません子「さうもはるく不自由さかど
 ざのまま。寝るる義成とやまをさうまませけれど
 ちやのけね。何ぞあつたつものいふ「何いふは
 せう。ちよらびら分して年らまらう「強出せ「がねもさ
 せう。ちよらびら分して年らまらう「強出せ「がねもさ

花筐 5編

花筐 5編





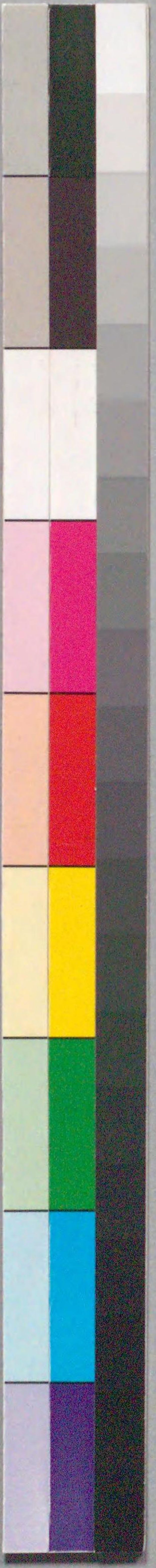
6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8

可笑易ののやア浪りません。たゞお出の娼妓ども。
病がねくと望うア中さきません。お出の娼妓ども。
大丈夫さ。一々やア遠くね。お出の娼妓ども。
ねのサ。一々くお出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
一々やア切なせや。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。

お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。
お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。お出の娼妓ども。

お出の娼妓ども

お出の娼妓ども



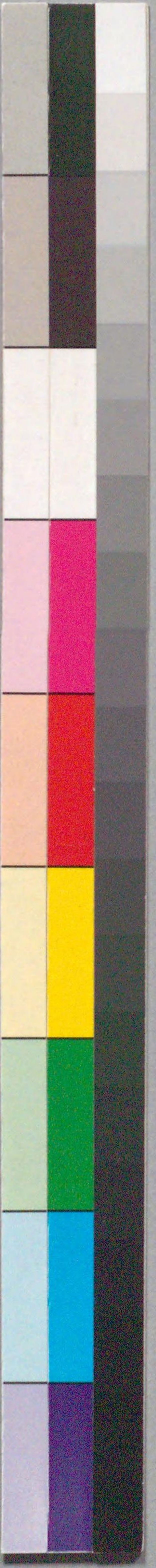
208
15
700

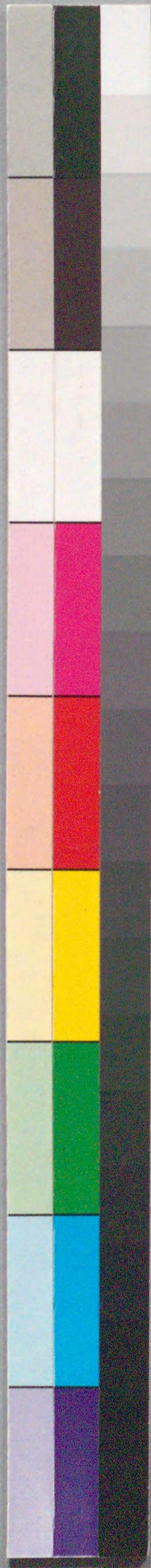
花がとと初編卷之上終

仕申う。こを忍^をで誰^れうは物^{もの}まき^ききて是^こるナ多^たハ松^{まつ}が性^{せい}
て来^きませう。まハナ^なくそりや。吾^{われ}儕^{せい}が性^{せい}ヨ。そんあうか
あがえ。お能^ねのまう^まて由^ゆてお^おくまは^は方^{かた}のお茶^{ちや}ハ
熟^{じやく}のう^うト是^こより纏^{まと}成^{なり}細^こら^らん。やぐ^{やぐ}て食^たる^るの由^ゆ海^{うみ}け
ま^まび。みあ^{みあ}く外^あ房^{ぼう}へ入^いふけり

花がとと

初編

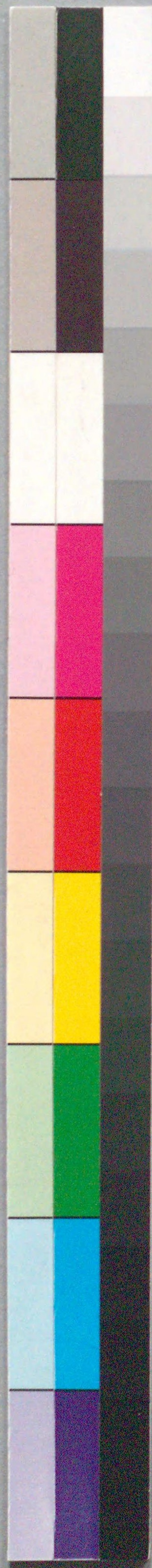




国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用





国立国会図書館 花筐 5編 208-700



ガラス使用

